



「有田みかんシステム」

● **申請団体**／有田みかん地域農業遺産推進協議会（令和2年（2020年）6月8日設立）

● **申請地域**／有田市・湯浅町・広川町・有田川町のみかん栽培地域

「有田みかんシステム」は次を核とした、持続的農業システムです。

● みかん生産者による優良品種の探索と農家による苗木生産の組み合わせによる「自律性の高い産地形成」

● 多様な地勢・地質の組み合わせに応じた「栽培技術の開発」

● 日本初のみかん共同出荷組織「蜜柑方」を起源とする「多様な出荷組織の共存」

有田地域の温州みかん生産量は日本一を誇ります。400年以上にわたりみかん栽培を発展させ続け、日本のみかん産業をけん引するとともに、新たな計画による新規就農者の確保、6次産業化による収益性の向上や女性の参画などを進めてきた本システムは、「持続可能な農業の促進」「陸域生態系の持続可能な利用の促進」「ジェンダー平等」の達成に確実に貢献するものであるといえます。

日本で初めてみかん栽培を生計の手段に発達させるとともに、持続可能な開発を可能にし、当地域を日本一のミカン産地に発展させた持続的農業システム

1. みかん栽培の産業化

室町時代から自生みかんを栽培。安土桃山時代には熊本県から小みかんを導入し、優良系統の選抜を重ねることで「紀州みかん」を育成しています。

⇒ **日本のみかん産業をリード**

2. 多様な品種の発見・栽培

高い観察力により、数多くの優良品種を発見し、品種のバリエーションを増やしてきました。みかん栽培との兼業で高品質な苗木（2年生・土付き苗木）を産地内で生産。

⇒ **産地の自立性を向上**

3. 地勢・地質に応じた栽培

多様な地勢・地質の組み合わせに応じた「長所を生かし、短所を克服する」栽培を行ってきました。

⇒ **地域全体で「有田みかん」産地を形成**

4. 販売面での優位性の維持

江戸時代、日本初のみかん共同出荷組織「蜜柑方（みかんがた）」を組織。以降も時代に応じてその形態を発展させてきました。現在では多様な出荷組織が共存しています。

⇒ **販売面での優位性の維持**

持続可能な「有田みかん」産地の発展

本システムにより400年以上にわたり栽培を継承。多くの産地が栽培面積を減少させるなか、栽培面積を維持。

日当たりの良さと本来の果実特性を発揮する土壌条件を生かした「三波川帯・有田川北岸河口部・階段園での普通品種栽培や早生品種の完熟栽培」

適度な水分保持力と「紅の濃さ」を生む微量元素の豊富さを生かした「秩父帯・内陸部・階段園での早生品種栽培」

減酸の早さと昼夜の大きな寒暖差による色抜けの早さを生かした「四万十帯・北向き園での極早生品種栽培」



山頂の雑木林…土壌の崩落・浸食を防止
石垣の階段園…雨水の流速を減速
⇒ **河川環境を維持**